

宮崎県教育委員 県外視察報告書 (大阪府)

宮崎県教育委員 島原俊英

訪問日：平成31年2月5日(火)～2月6日(水)

訪問者：島原委員、松山委員、高木委員、中嶋課長、野中主幹、仲谷主事

訪問先、2月5日(火) 大阪府立西成高等学校

2月6日(水) 大阪市立玉出小学校、大阪市立大空小学校

1. 大阪府西成高等学校

1) 学校の概要

昭和49年 開校

平成 5年 普通科総合選択制に改編、

平成 8年 知的障がい生徒自立支援コース設置

平成26年 総合学科エンパワメントスクールへ改編

生徒数 560名、知的障がい生徒数 100名、(5～6人/クラス)

2) 学校の特徴

①エンパワメントスクール

・一年次に30分授業を行い、国語・数学・英語を小中学校の基礎から学び直す。算数は、2ケタの掛け算でつまづく生徒がいるため、小学校3年生レベルから学び直す。

「やったらできた」という自信をつけさせる。高2ギャップがある。

・学びの進行具合によって、クラスの構成を変えたりしながら、少人数・習熟度別授業を行う

②居場所カフェ

・高校内居場所カフェとして、7年前に開設した。学校内にあるサードプレイス(家でも授業でもない、第3の居場所)として、機能している。生活指導はしない。

・飲み物を飲みながら、学校の中で、気持ちをのんびりと落ち着け、ゆったりと保つことができる場を提供している。自分の事を話すことで、思っていることを整理できる空間にもなっている。年間1,700人が利用している。

3) 感想

生活保護・非課税家庭が5割であり、一人親世帯も多く、また、貧困から来る引きこもり・虐待・不登校などの厳しい問題を抱えた生徒が多い中、社会で活躍できる基礎力・実践力を付けることを大切にしていた教育を行っていました。

中退率が2割の時代もあったが、現在は、7%となっており、3%を目指しているそうです。

勉強に向かう環境づくりに様々な課題がある中、個々の生徒の実情に合わせて、学ぶ場や居場所を作ろうとする、教育委員会や現場の先生方の御苦勞を知りました。

西高だよりに寄せた山田勝治校長先生の言葉が印象的でしたので、記載します。

「本校がめざす『学び直し』的なこととは、(中略) 一般的な内容ではなく、むしろ『与えられなかった機会』や『つかむことの出来なかったチャンス』をもう一度捉え直すことで、18歳のスタートラインには横一列に揃うことが出来ることをさせているのではないかと思います。本校のめざす学びのスタイルは『インクルーシブな学び』、すべての生徒が同じ学びの空間=「フレーム」に入る方法だと改めて感じています。」

2. 大阪市立玉出小学校

1) 学校の概要

明治6年 玉出長源寺に開校

平成16年 はぐくみネット発足

平成22年 ことばの教室開設

平成24年 創立140周年記念フェスタ開催

146年の伝統校であり、昔は規律のある学校だったが、数年前に荒れた。

行事の詰め込みすぎなどもあり、先生が対応に追われた。新卒教職員が配置されることが多く、一時期、授業力が不足していたが、近年改善してきている。

基礎基本の学力の定着を目指して、教職員が一丸となって、授業を変えていく意識改革が進んできた。落ち着いた雰囲気を取りもどす必要があり、玉出スタンダードを徹底させた。

2) 学校の特徴

- ・市教育委員会が配置しているコラボレーターによる学習支援を受けている。
週1. 5日、コラボレーター石川先生に、授業に関する情報が集まるようにし、先生方との意見交流会も週1回行っている。
- ・文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実にかかる支援事業」研究指定校

<大阪市による学校力UPコラボレーター>

学力向上支援が必要な小中学校70校(平成29年度)に対して、38名を配置している。

子ども一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援策 5項目

教員の授業力向上に関する支援策 7項目

連携協力の推進などの支援策 7項目

など、大阪市では、学力だけで、年間予算100億円を投入している。

3) 感想

学校力UPコラボレーターの授業では、形式段落と意味段落という難しい課題を、挙手や早口読み・黙読などを使いながら、テンポよく授業を進め、モデル授業を行っていました。

大阪市は全体として、学力に大きな問題を抱えていると認識していて、学力向上のために、多額の市の予算を投入している、と聞きました。

3. 大阪市立大空小学校

1) 学校の概要

- ・平成18年に開校、13年目の比較的新しい学校
児童数1,143名の南住吉小学校という大規模校の問題解消のために、分校という形で運営され、その後、「みんながつくるみんなの学校」として、大空小学校が生まれた。学校は選択制で、区内のどの学校を選んでもよい。
- ・他府県からの転入が多い(330人)。
その内、20名が支援の必要な児童
- ・インクルーシブ教育が行われている。
全校児童の中で、65名が特別支援の必要な児童
各学級30名の中で、2人～3人、支援の必要な児童がいる。


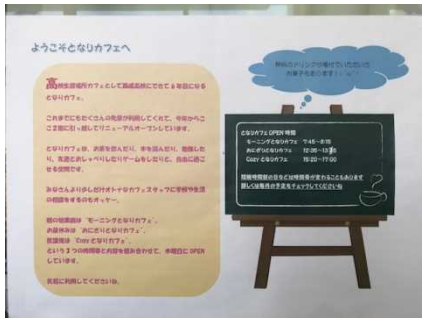




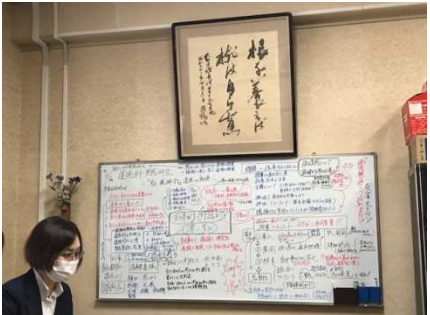

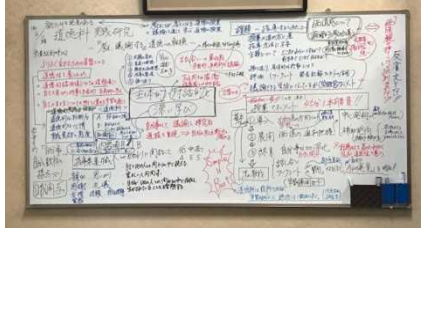
2) 学校の特徴

- ・「みんながつくるみんなの学校」の理念を、あらゆる関係者が意識し、活動を行っている。
毎日が参観日、年間500人が自由に見学をし、アシスタントティーチャーとして、関わる。
開校以来、教職員以外の大人が、常に授業に関わるというのが、当たり前になっている。
＜その他の取組・仕組み＞
大空はぐくみネット、OZORA塾、SEA(PTA)活動、アシスタントティーチャー
大空パトレンジャー、大空図書レンジャー、大空クリーンレンジャー、大空生涯学習ルーム
コミュニティー室の開放(地域、サポーターへ)、大空ゆめわくクラブ
- ・「すべての子どもを多方面から見つめ、全教職員のチーム力で育てる」という教育方針を掲げ、職員室では、チームとして、常に話し合い、助け合っている。
- ・大空小学校の“たった一つの約束”と“育てる4つの力”を定め、浸透させている。
児童たちが出来なかったとき、校長室に来て、告白をし、やり直しを行う。
たった一つの約束：自分がされていやなことは人にしない 言わない
育てる4つの力：人を大切にする力、自分の考えを持つ力
自分を表現する力、チャレンジする力
- ・学力には課題があるが、自尊感情の向上は群を抜いていて、生きる力は、身につけているとのこと。
- ・インクルーシブ教育を行っていることで、子供たちどうしがお互いに認め合いやさしいと感じるとのこと。
- ・独自の教育プラン
みんながつくるみんなのコンサート：音楽を通して、心を育てることを、重要視している。
全校道徳：話し合いたいテーマを児童から募集し、毎週月曜日に縦割りのメンバー構成で討議をする。グループは6～7名で、6年生がリーダーとして発表をする。
＜その他の取組＞
命を守る学習(コミュニティー防災)、オープン授業、オープン講座、ようこそ、大空先生、
Birthdayメッセージ集会、朝の読書タイム、朝スタディ、サマースタディ、など

3) 感想

- ・教育委員会から赴任した校長先生の実感として、教職員全員で全部の子供を見るという校風が定着し、教職員の風通しがよいと感じているとのことでした。
- ・子供たちが、素直で、自分から積極的にコミュニケーションを取る姿が印象的でした。

大阪視察 写真集

<p>西成高等学校</p> 		
		
<p>玉出小学校</p> 		
		

大空小学校

